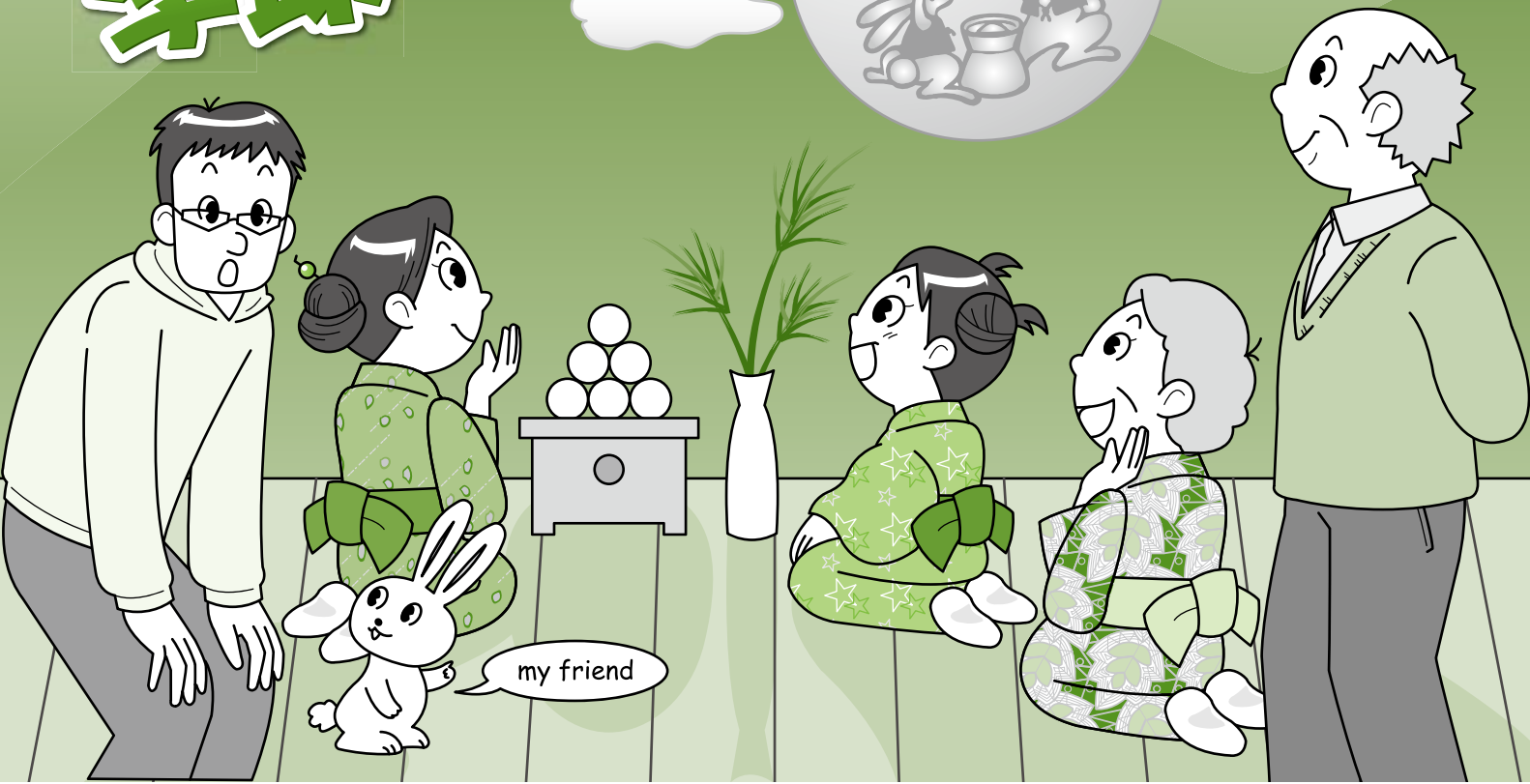


# 広げよう コミュニティの輪

彩の国コミュニティ協議会

第25号 2009.9

## 家族みんなで 季節を楽しもう!



### 主な内容

#### P2 平成21年度総会・30周年イベント報告

- ・会長あいさつ
- ・基調スピーチ「市民社会と協働」

#### P3 事例発表「棚田の再生」 「企業のCSR活動」 「みんなの川キレイ大作戦」

- ・意見交換

#### 会員紹介

- ・トヨタホーム東京(株) 埼玉支店

#### 市町村コミ協の魅力発見

- ・川口市コミュニティ協議会

#### P4 地域の絆

～地域に安心感をもたらす公園づくり～

### お知らせ

「プチ情報」への情報掲載を希望される会員の方を募集しています。  
詳細については事務局へお問い合わせください。

### 彩の国コミュニティ協議会 会員 & 賛助会員 募集!!

コミュニティ活動をさらに活発にするために、協議会の趣旨に賛同し協力していただける新規会員、賛助会員を募集しています。入会、お問い合わせについては当協議会事務局まで御連絡ください。

会員

- 企業・団体
- 会費：企業 1口 5,000円を2口以上  
団体 1口 5,000円を1口以上

賛助会員

- 個人
- 会費：1口 2,000円

賛助会員だけの入会特典

コバトンストラップ又はコバトン缶バッジ(2個)をプレゼント!

コバトンはかわいい  
コバトン缶バッジがいっぱい!



入会記念として

コバトンストラップ又は  
コバトン缶バッジ(2個)を  
プレゼント!

# 平成21年度定期総会・30周年記念イベント開催報告

平成21年6月11日(木)に平成21年度の定期総会を開催し、多くの方々に御出席いただきました。

平成20年度事業報告や平成21年度事業計画(案)等について審議が行われ、原案どおり承認されました。

また、総会後の彩の国コミュニティ協議会30周年記念イベントでは、地域協働をテーマに基調スピーチや事例発表が行われ、活発な意見交換の場となりました。

## 会長あいさつ

speech of welcome



本日は彩の国コミュニティ協議会総会・協働による地域づくりの集いに本当に多くの方々にお集まりいただき、ありがとうございます。日ごろ地域におけるコミュニティ活動に多大なる御支援をいただいております各関係の皆様からお礼を申し上げます。

今、民間の防犯パトロールは4,800団体の皆様に活動していただき、全国的にも断トツの1位を誇っております。こうした活動のおかげもあり、住宅侵入犯やひったくりも約半分に減りました。また、警察は強盗、殺人などの凶悪犯に取り組みことができ、検挙率が倍近くに上がるなど、地域の取組が結果として答えを出しています。

自助、共助、公助という言葉があります。自分のことは自分でする、共に助け合うことがあったら一緒にやっ払い、それでも駄目なら公が助けようという言葉です。私は、この共助の世界をどれだけ大きく広げるかで地域社会の住みよさが決まってくると思っております。

秩父では、みやのかわ商店街が事務局になり、元気なお年寄りが支援を必要とするお年寄りを応援する仕組みができています。1時間800円で仕事をしていただき、300円は手数料として商店街に入る。報酬の支払いは地域通貨券で行い、それをまた地域で使っていただくという、一石二鳥、三鳥の取組です。このような地域による助

け合い運動を広げたいと考えております。

本日は、事例として、NPOと企業の連携による「棚田の再生」、NPOと自治会等の地域の連携による「河川の清掃活動」の2つの取組が発表されます。こうした地域と企業、NPOが連携した様々な取組が進むことで、埼玉は住みやすいものになると思います。現在、県では、多くの県民の皆様に参加していただき、みどりと川の再生事業を全面展開しております。30年で失った6,500ヘクタールのみどりを4年間で3,000ヘクタール取り戻そうという壮大なプロジェクトは着実に進んでおります。また、どぶ川を清流に戻そうというプロジェクトもスタートし、これも埼玉が誇る新しいモデルの一つになるかと思っております。

先日、脳トレで有名な川島隆太東北大学教授が、認知症にならない3原則を教えてくださいました。まず、毎日読み書きをするということです。聞き流しているとき7%しか覚えられないそうです。メモにしたら30%覚えるそうです。そして人に伝えると70%残るそうです。2つ目として、コミュニケーションのいい人たちは脳が活性化するので、今日お集まりの皆様は既に実践されていますので殊更何もする必要はありません。3つ目は、指や手を動かしていると非常に脳が活性化するので、料理や手芸など考えながら手を動かすことはとてもいいそうです。

こうしたことをしっかりやるためには、まさしくコミュニティが地域で出来上がっていることが大切です。様々なエリアの中でこうした豊かな心を養うことが可能になるようなコミュニティづくりに、今後ともお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。

## 基調スピーチ「市民社会と協働」

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター 齋藤 信夫 氏

今、公共のサービスの質が問われる時代になっており、自分ごとのように地域社会に参加していくのかという志向が強まっています。一般的に協働というのは市民参加の意味でとらえることが多いようです。行政と市民の協働という言葉がよく使われ、企業との協働ということでも使われています。

市民、企業、行政の3者は行動原理が違います。持ち味が違うから連携しにくいと思うかもしれませんが、しかし、協働というのは別の言い方をすると『補完』だと言われてます。強み弱みをお互いに自覚し、それを補い合うこと。協働していくということは弱みを補ってもらったり、弱みを克服したりする作業です。弱みを自覚すれば、それが強みに変わってきます。協働によって、強みをパートナーに提供することもできます。協働とは強み同士がくっついたものではありません。そこに新しい価値観が生まれ、新しい相互関係が生まれることに面白さがあるのです。

例えば、阪神・淡路大震災では企業とNPOとボランティア団体



が連携して救援・支援活動を行うことができました。そしてそのとき、公平・平等に縛られる行政と、自由に先駆的に必要な時にすぐ動けるというボランティアとの違いが鮮明になりました。これは、良いことであり、違いがあったのだから連携のしようがあるということです。違うからできないのではないのです。

市民社会とは、自分たちが住んでいるまちのありようを自分たちで責任をとる社会です。自分たちでできることは自分たちでやる。何でも行政任せではなく、お互いの持ち味を寄せ集めて良い暮らしをつくっていきましょうという時代になっています。

これから発表される3つの事例をとおして、協働の意味や協働の仕方を探っていけたらと思っています。

これから発表される3つの事例をとおして、協働の意味や協働の仕方を探っていけたらと思っています。

### プチ情報!

#### 第31回郷土芸能市民のつどい

民謡・民舞、大正琴など郷土芸能の発表を行います。日時：平成21年10月25日(日)、場所：行田市産業文化会館  
お問い合わせ先：郷土芸能市民のつどい実行委員会048-555-0244



特定非営利活動法人 秩父の環境を考える会

「棚田の再生」 黒澤 與四郎 氏

初めは休耕田となっていた棚田で絶滅危惧種のオオコオイムシの保護活動に努めていました。数年前には秩父の県立高校、農業科の生徒と一緒に保護を続けながら古代米を作ろうということになり、稀少生物が絶滅しないよう、無農薬・無肥料で行っています。昨年度からは、NTTコミュニケーションズの皆さんとその御家族の方にも参加していただき、企業とNPOと高校生が協力し合いながら農業体験に取り組んでいます。



NTTコミュニケーションズ株式会社

「企業のCSR活動」森下 高志 氏

参加型CSRプログラムの目玉として、秩父の棚田再生活動に取り組んでいます。直接の活動目的は「地球環境保護」や「社会(地域)貢献」ですが、社員参加型ということで社内の様々な雇用形態の社員やその家族を外に連れ出し、共同体験を通じてコミュニケーションを活性化させるというねらいもあります。また、弊社が得意とするICTの力を使って農業の生産性を上げていけるような工夫をしていこうと試みているところです。



特定非営利活動法人 越谷NPOセンター

「みんなの川キレイ大作戦」

村田 恵子 氏

川の清掃自体は珍しいものではありませんが、特徴としては流域を区切って7つの団体が担当しています。それぞれが責任を持って地域の自治会や大学、コミュニティ協議会等にも声をかけ、一緒に清掃活動を行っています。当センターでは全体的な広報を受け持ち、その費用については民間助成団体に御協力いただきました。自治会やNPO同士の連携がスムーズに進み、独自の活動ができてきています。



意見交換

exchange views

事例発表をふまえた意見交換の場では、その他の協働事例として和光市コミュニティ協議会とNPOが連携して行った「公園安全確保し隊」について報告がありました。(次ページにて紹介)

また、各団体が協働事業を行っていく中での課題なども取り上げ、有意義な話し合いの時間となりました。

会員紹介

新しいメンバーが加わりました!

トヨタホーム東京(株) 埼玉支店

私共「トヨタホーム東京株式会社 埼玉支店」は、地域密着をモットーに、地域の方々にご利用頂けるコミュニティーサロンを併設しています。今までに、IHヒーターとガスコンロを比較しながら御参加の皆さんと料理を作る「料理教室」、屋上やベランダを利用してどなたでも実践できる「家庭菜園教室」、ネイリスト指導による「ネイル教室」、セラピストによる「ベビーオイルマッサージ」等の催しを定期的に開催しました。また、地域社会との交流をより一層深めるため、コミュニティーサロンを提供しています。各種サークル活動の場として、無料でお気軽にご利用頂けるスペースがございますので、お気軽にご利用下さい。



家庭菜園教室の様子

昔から、「満足のいく家にするには3回建てなければ」と言われてきたのも、家づくりの難しさを物語っています。だからこそ「いい家」づくりに欠かせないのが、家づくりのパートナー。建てるまではもちろん、建ててからも、しっかりと家を支えてくれる「いいパートナー」を見つけることが大切です。トヨタホームは、皆さんと一緒に夢を育み、思いをしっかりと受け止め夢の実現へと一緒に歩むかけがえのないパートナーでありたいと考えています。

トヨタホーム東京株式会社 埼玉支店  
住所：埼玉県志木市本町5-1-4 TEL：048-486-2383 FAX：048-471-8176  
ホームページ：http://www.toyotahome-tokyo.com/

市町村コミ協の魅力発見!

県内には70の市町村コミュニティ協議会(=コミ協)があります。地域性、特性を活かして活動しているコミ協をPR! あなたのお住まいの地域で活動している市町村のコミ協はどこなところでしょうか?

川口市コミュニティ協議会



スタンプラリーの様子

川口市では、毎年6月に「青少年まつり」を開催しています。ボーイスカウトや少年サッカー、子ども会など、市内の青少年団体が参加し、団体相互の交流とPRを行っています。

川口市コミュニティ協議会では、この「青少年まつり」において、メイン企画であるスタンプラリーに協力しています。各団体が設置した、キックターゲットや紙飛行機作り、空手道など、会場内12か所の体験コーナーを回りながらスタンプを集め、ゴールを目指します。子どもたちは、普段なかなか経験できない内容を体験して大興奮。それぞれの活動に興味を芽生えた子どもも多かったようです。

今年も天気に恵まれ、2,000人余りの子どもたちが参加しました。学校や年齢が異なる子どもたちが互いに交流を深め、会場は大変な賑わいを見せました。



参加した子どもたち

当協議会は今後ともスタンプラリーを通じて、子どもたちの好奇心を伸ばし、また、人と人の輪を広げる「青少年まつり」に協力し、未来を担う子どもたちの健やかな成長につなげていきたいと考えています。

事務局：川口市自治振興課 TEL048-259-7629



# 地域の絆

コミュニティ活動は地域住民や地域団体、企業等様々な団体のつながりで支えられています。そんな地域のつながり＝「絆」を昨年度に引き続き、皆様にお伝えしていきます。今回は、コミュニティ協議会と自治会、NPOとの協働事例です。

## コミュニティ協議会がつなく自治会・NPOとの協働

# 地域に安心感をもたらし公園づくり



和光市コミュニティ協議会緑化推進委員会は、「平成20年度協議会活動推進事業費助成金」を活用し、自治会やNPOとの協働による～地域に安心感をもたらし公園づくり～を行いました。

### トータムポールの思い出をきっかけに安心・安全な公園づくり

今からさかのぼること23年前の秋、地域の育成会を中心に、トータムポールとレンガブロックレリーフの作成を行った公園がありました。そして、23年後の今年3月、コミュニティ協議会が中心となり、NPOと、今では父、母、祖父、祖母となった当時のメンバーや、その子どもたちや孫などの地域の人々が、その公園でイベントをすることで、記憶をつなぎ、安心・安全な公園づくりをしました。



23年前のトータムポール

ル公園は、調査の結果、トータムポールのある公園が選ばれました。NPOの調査や、地域の方々の話によると、この公園は、近年、不審者や不良のたまり場となっている様子が報告されていたのでした。

### コミュニティ協議会がつなぎ役

イベントは二部構成でした。【第1部】は、地元自治会集会所にてトータムポールやレリーフの思い出話と地域が見守る公園についての講演会(講師：千葉大学名誉教授 中村攻氏)。【第2部】は、トータムポールのある宮ノ台児童遊園地公園にて斜面の緑化活動(芝桜230株を植樹)、地元育てる会協力による、おしるこの配布とお菓子すくいゲームでした。



緑化推進委員長の植樹指導

事業終了後の今、地域の人たちが交代で花に水をあげています。一時はたまり場となり、危険とされていた公園から、子供たちの楽しそうに遊ぶ声も聞こえるようになり、結果として、地域の住民に愛され、癒しと交流の場としての公園づくりのお手伝いのできたのです。

このように、コミュニティ協議会とNPOという2つの主体がしっかりと歯車を合わせることで、1つの主体が実施するよりも、何倍もの大きな効果を生むことができました。NPOは地縁団体と協働することにより、より一層活動の幅が広がります。今後も、コミュニティ協議会がつなぎ役となり、様々な団体がお互いの得意分野を活かすことのできる事業を開催し、地域を盛り上げていきたいです。

### はじめりはNPO団体の公園調査から

平成18年から19年にかけて、和光市のNPO団体が、子どもたちが安全に公園で遊べるようにと、市内全域の公園調査を行い、結果を市に報告しました。報告したものの、その後のつなぎ方を考えていました。「どうしたら、公園を地域の人に愛され、癒しと交流の場にできるのか・・・。」

そこに現れたのが、我らがコミュニティ協議会！緑化推進委員会を中心に「緑」をテーマにコミュニティ形成を考えました。実はその頃、コミュニティ協議会にも課題がありました。これまでの事業は委員による公共施設への植栽や、農業祭で花と球根の販売でした。しかし、委員が植栽をするだけでなく、子どもと一緒に作業するなど、人と人のふれあいのあるイベントを通して、コミュニティづくりをしたいと思っていたのでした。

ここで、専門性を持つ「NPO」と、地縁の力と知恵がある「コミュニティ協議会」という2つの異なる団体が出会いました。NPOが調査した公園の中からモデル公園を探して、コミュニティ協議会が、地元自治会の協力を得て地域の人たちを集め、一緒に公園づくりをしてみようということになりました。モデ



現在のレンガブロックレリーフ



芝桜が満開です！

### コミュニティマップのご案内 県内のイベント情報が盛りだくさん！

彩の国コミュニティ協議会発行のコミュニティマップをご覧になりたい方は、120円切手を同封の上、彩の国コミュニティ協議会事務局(表紙下記参照まで)へお送りください。

